

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0170500987		
法人名	有限会社 シルバーバック		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	札幌市清田区真栄1条2丁目2番28号 (電話) 011-888-8480		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】 (20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての 1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000～40,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 19,000 円	
			暖房費(11～3月) 5,000円	
敷金	有()円・ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,150 円			

(4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	74歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック・美しが丘整形外科・ラビット歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

改良型のホームですが、個人住宅と見間違ふほど、一般家庭の雰囲気を出しています。利用者は思い思いの場所で、職員と将棋を指したり、衣類の繕ぎや、おやつ作りをしたりと、穏やかな一時を過ごしていました。玄関前の道路には、町内会の配慮による花壇が設置され、行き交う人々の目を楽しませています。ホームが用意したベンチが「お休み処」として、交流の場になっています。利用者の意向や希望を第一に考え、楽しく安全に暮らせるホーム作りを目指し、実践に取り組んでいる「グループホームさくらの里」です。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目である「重度化や終末期に向けての指針や同意書の整備」については、改善が見られましたが、「災害時における地域の方々の協働体制、災害備蓄品の確保」については、取り組みが十分とは言えず、これからの課題としています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員各自が、項目毎に検討した内容を評価表に記入し、職員会議で話し合い、管理者が纏めました。自己評価での振り返りにより、新たな見直しができるなど、有意義に活用しています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3～4ヵ月毎に開催し、ホームの活動報告、地域密着型介護、高齢者虐待防止法、認知症サポート養成講座、自己・外部評価の取り組みなど、運営に向けて協議され、その後のケアサービスに活かしています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時や、運営推進会議、さらに家族と職員の伝達ノートの中から、意見や要望を把握し、職員会議の中で対応策を話し合い、運営に反映しています。外部苦情申立機関も明示しています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の行事には積極的に参加し、利用者、職員の充実感に繋がっています。さらに保育園児や高校生との交流、ボランティアの受け入れなど、隣近所としてのお付き合いになっています。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスのあり方を理解し、ホームとして果たすべき役割を盛り込んだ運営理念・ケア理念を作り上げ、パンフレットや玄関、ユニット内、事務室に掲示しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やミーティング、さらに日常業務の中で理念を再認識し、ごく当たり前のこととして捉え、実践に向けて取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への係わりの強化に努め、祭り、高齢者交流会、5町内合同の運動会、七夕祭り、盆踊り、花壇作りなどに参加し、利用者、職員の充実感に繋がっています。また、保育園児や高校生、ボランティアとの交流があるなど、隣近所としてのお付き合いになっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員各自が、項目毎に検討した内容を評価表に書き入れ、職員会議で話し合い、管理者が纏めました。外部評価での改善に向けての取り組みや、自己評価では、振り返りによる新たな見直しができるなど、有意義に活用しています。		

札幌市清田区 グループホーム さくらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、町内会役員、家族、利用者により構成され、3～4ヵ月毎に開催し、ホームの活動報告、地域密着型介護、高齢者虐待防止法、認知症サポート養成講座、自己・外部評価の取り組みなど、運営に向けて協議され、その後のケアサービスに活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは、運営に向けて、助言や意見をいただいたり、ホームとして地域へ還元できることはないかなど、お互いに情報交換し、共にサービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの活動状況は、毎月「さくらの里通信」を発行し、家族宛に利用者の心身の状態や、医療情報書、出納明細を郵送で報告しています。さらに家族来訪時や電話で、詳細に伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議、さらに家族と職員の伝達ノートの中から意見や要望を把握し、職員会議の中で対応策を話し合い、運営に反映しています。外部苦情申立機関も明示しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	直近の一年間は、異動はありませんが、離職が発生した場合は、利用者が混乱なく生活を維持できるよう、職員全員で対応する配慮が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度に応じ、内部・外部研修への参加を促し、業務上の参加はもとより自発的参加も出張扱いとし、研修費もホーム負担にするなど、職員の向上心に繋がる育成の取り組みをしています。研修内容は内部研修で報告し、職員全員の共有としています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、区のグループホーム協議会を通し、勉強会への参加や、ほかの業者との情報交換、相互訪問などで交流を図り、サービスの質の向上に繋げています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、管理者と職員が出向き、生活歴などの情報を得たり、利用者・家族の方々に、2～3回見学していただき、利用者の方々の係わりを通じ、双方の受け入れ体制が整った時点で、利用開始としています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が、これまで培われてきた生活の知恵や、それぞれの時代の出来事などを教えていただいたり、夜勤時には、労りの言葉かけがあったりと、家族としての縁を結び、日常生活を共に過ごしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や職員間の情報を下に、会話や表情から、希望や意向の把握に努め、一人ひとりが、穏やかに暮らしていけるよう支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の要望に沿い、職員会議で、一人ひとりの視点に立った課題を検討し、介護計画を作成していますが、家族からの要望・意見の把握が十分ではなく、今後の課題としています。	○	利用者が、より良く暮らす支援として、家族を交えた介護計画の作成を考慮していますので、実施に向けての取り組みに期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始時は、仮プランを作成し、状態が落ち着いた後は、3ヵ月毎に新たな介護計画を作成しています。また、利用者の心身の状態変化に応じ、その都度現状に合った介護計画の見直しを行なっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じ、通院、買物同行、ふるさと訪問、墓参り、家族の宿泊支援、24時間対応の医療支援など、柔軟な支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、24時間対応の協力医療機関や看護師の下、月2回の往診、週2回の看護師による健康チェックの支援を受けています。また、利用者の状態変化時や、年2回の健康診断の結果は、医師から家族とホーム宛に、病状、留意点の報告があります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化や終末期に向けての指針を説明し、同意書をいただいています。看取りに対しては、今後、家族と十分に話し合いの機会を持ち、ホームとして、最大限のサービスの提供を思慮します。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの性格を把握し、言葉遣いに注意を払い、人格を尊重した配慮がされています。個人情報の書類は、適正な場所に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに合ったペースで、一日が過ごせるよう、その都度確認しながら、希望に沿った支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、業者から宅配されていますが、食材が品薄の時は、利用者とメニューを考え、買物をしています。調理の下ごしらえ、食事、後片付けなどを行ないながら、食事は大切なコミュニケーションの場面になっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴日を設けていますが、希望により、いつでも入浴はできます。利用者の要望で、銭湯にも出向いて清潔保持に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの持てる力に応じて、テーブル拭き、茶碗洗い、洗濯物干し、掃除、雑巾しぼり、畑作り、花壇の手入れ、ペンキ塗りなどの役割を担っていただく場面作りの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの意向に沿い、買物、散歩、パークゴルフ、ボーリング、体育館、美術館、図書館、映画、ビール工場見学、外食などの支援に努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間のみ施錠をしていますが、日中は、職員の見守りの下、利用者は自由に外出を楽しんでいます。地域の方々の訪問も多く、社交的な場面が展開されています。		

札幌市清田区 グループホーム さくらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員各自がリーダーになり、昼・夜間想定避難訓練を行ない、その中での改善点を見出し、解決に向け検討していますが、地域の方々との協力体制や、災害時の備蓄品の確保は十分とは言えず、これからの課題としています。	○	運営推進会議で、災害時における地域の方々への協力体制の要請をしていますが、同時に、住民の方々の参加による避難訓練や、備蓄品の確保を実施する意向ですので、取り組みに期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,800cal、水分量は1,300ccを目安に、栄養バランスに留意した献立になっています。水分量はチェック表で確認し、食事摂取量は必要時に記録し、職員の共有としています。嚥下状態に応じ調理を工夫し、美味しく食事ができる支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改造型のホームですので、共有空間は一般家庭をうかがわせる造りになっており、生活感に溢れ、季節毎の行事や食事などで、季節の移り変わりを感じています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や仏壇、神棚、調度品などが配置され、利用者が安心して暮らせるよう配慮しています。		

※ は、重点項目。